

## 2014年度 途別小 研修のまとめ（反省）

2015年1月21日

### 1. 仮説の検証

#### ○ 仮説1について

ICT機器等を効果的に活用することにより、「見通し」や「振り返り」、「確認」を重視した授業が展開され、児童の興味・関心が高まり、知識の深まりにつなげていくことができるであろう。

#### <成果>

- 導入の段階でICT機器を活用することにより、児童が「見通し」をもち、意欲的な学習を行っていた。タブレットPCの操作で、個別のタイムリーな「振り返り」が可能になり、モニターの効果的な活用で、「確認」につながる全員での「振り返り」可能となっていた。
- 学年に応じてICT機器が効果的に活用されていたと思います。そこから振り返り、確認して、子どもの興味はもちろんですが、参観させてもらった自分の関心も高められました。
- こどもたちはある程度のICT授業に対応できる基本的なスキル（操作方法）を身に付けてきている。

#### <課題>

- 今後、児童の知的好奇心を揺さぶる導入の在り方を追究していく上でも、ICT機器の活用について研究していく必要がある。
- 「まとめ」の段階での活用の仕方についてもう少し工夫が必要ではないか？
- 各教室に1台（できれば理科室にも）大画面のモニターが必要。

◎ 仮説の狙い通りに、「見通し」や「振り返り」、「確認」を重視した授業が展開されたと考えられる。また、児童の興味・関心の高まりも見られた。反面、更なる活用法の追及や「まとめ」時での活用、機材の整備などが課題として考えられる。

#### ○ 仮説2

ICT機器等を効果的に活用することにより、「類型・比較」「分析・整理」等の学習活動を重視した授業が展開され、自己の考えを明確にもったり、関係性を高めながらよりよい考えを求めたりする子どもを育てることができるであろう。

#### <成果>

- 教師が子どもの発表に合わせて、マーカーによる焦点化を行っていたことが、子どもの理解を支援し、類型・比較、分析・整理が効果的になされていた。
- 互いのノートを大画面で見合うことにより、「類型・比較」を容易に行うことができ、相互評価しながら互いに高め合う授業づくりが可能となった。
- 分割画面での投影ができるようになったことで、発表の比較（見比べ）ができるようになったことは大きい。

#### <課題>

- 機器を活用し、質の高い授業にして行くためには、黒板やチョークのように使える技能が必要だと、使ってみてわかった。
- タブレット型パソコンの導入によってどのような授業展開が可能なのか試行していきたい。

◎ 仮説の狙い通りに、「類型・比較」「分析・整理」等の学習活動を重視した授業が展開され、児童に自分の考えをもち、交流に生かす力を育てることができたと考えられる。反面、機器の活用スキルの習得、教師側の新たに入るタブレット型パソコンの習熟などが課題として考えられる。

#### ○ 仮説3

ICT機器等を効果的に活用することにより、情報機器端末に対する抵抗感を取り除いたり、情報に対する危機意識を喚起する機会を増やしたりすることができ、情報モラルの育成につなげることができるであろう。

#### <成果>

- 教師中心に機器の活用が図られ、そのよさを児童が学習の中で感じているので、抵抗感は取り除かれていると思う。
- 道徳の授業でICT機器を活用し、情報モラルについて価値の理解や自覚を図ったことは効果的であった。
- 関係するDVDの視聴を基に情報社会の危険性を知り得ることは大変大切なことである。

### <課題>

- これから求められる能力の中の一つとして、ICT活用能力があげられていることから、情報モラル育成にかかわる授業づくりは必須である。
- チャットやメールなど実際にやり取りしている可能性もあるので、どのような文面で送信したらよいかをいろいろなケースを考えてトレーニングしてみる授業（情報モラル授業）も必要かもしれない。

社会的な状況もあり、情報機器端末に対する児童の抵抗感は取り除かれていると考えられる。しかしながら、情報に対する危機意識を喚起する機会の増加が課題として考えられるため、別掲の情報モラル年間指導計画を策定することとする。

## 2. 途別小の今後の研修にかかわって

### ○ 児童の実態、学校の現状、今日的なことなど

- 児童の実態 → ◎何事も真面目に取り組み、知識や技能を身に付けようと努力する。  
▲学習意欲が持続しなかったり、知識・技能の活用力が少なかったりする。
- 学校の現状 → 個の力を育むことができ、問題解決的・体験的学習に力を入れることのできる環境
- 今後の動向 → アクティブラーニングの重視 キーコンピテンシーベースの重視
- 子どもたちは、iPadの利用に学年が進むにつれて慣れて、授業にも活用できて素晴らしいと思います。
- ホワイトボードの利用で、iPadの使用学年がよくわかってよかったです。
- ICT機器の利用により、発表・交流時の型が身に付いてきた。ただ、多様な考えをもとに比較交流させたいが、絵や図、式を用いての表し方が十分身に付いていないので基礎学力を上げていきたい。
- 個人差が大きい学年がほとんどで、複式の中にも個別に対応した指導が必要である。
- 全体的に自分の考えをまとめて発言する力が乏しい。また、自信のなさから、発表の声が小さかったり、発表を躊躇してしまう子が多い。
- 少人数での学習であるため、多様な考えを交流するのが難しい。
- 時々聞き苦しいことば遣いをする子が見られる…。
- 素直で明るく伸び伸びとしてとても元気のある子たちが多いが、人前が出る（立つ）とこじんまりと萎縮したようになり、発表する声も小さくなりがち…。

### ○ 来年度取り組みたい研究

- 生活科・総合的な学習の時間の研究（教科との横断的な部分も含めて）
- 教科をしぼって、個に応じた指導のあり方について
- ICTを用いた交流と共有のさせ方
- 基礎学力の向上
- 今年度と同様、iPadを利用した交流の仕方
- iPadを利用した基礎学力の向上について
- 今後、道徳が前倒し的に「新たな枠組みによる教科化」となる。指導方法を含め、今からどのような下準備（心構え）が必要なのか、授業実践を基に考えていくきっかけにしたい。
- なかなか研修の時間確保も難しいのですが、防災（減災）教育や職員の服務規律全般などのケーススタディも組み入れてはどうか。

◎ 以上のことを踏まえ、ICTに関する研究の継続か、その他の方向に行くのか、そして教科をしぼって研究を進めていくのかを、来年度考えていくこととなります。

## 3. その他

### （1）実技研修について

#### ①今年度の実技研について

- ・ 実施時期については、スキー学習前の研修で助かりました。
- ・ 講師については、十勝保体サークルにお願いしました。新たな知識を得ることができました。
- ・ 内容については、時間は短かったけれど充実していました。子どもの目線に立った指導法が聞けてよかった。
- ・ もう少しいろいろな指導法のバージョンを教えてほしかった。
- ・ 初級スキー指導のいろいろなバリエーションを紹介してほしい。
- ・ 小学校現場で勤めているサークル研の講師も一考である。(小学生の気持ちがよくわかるので)
- ・ 力の入れ方など、1・2年生に教える時のポイントとして役に立ちました。
- ・ 1時間しか時間が無い中、指導のポイントを押さえて教えていただきよかったです。
- ・ バックプルークを実践に生かしたいと思います。
- ・ 実技研が無いと指導が自己流になってしまうので、このような機会に学べてよかったです。ありがとうございました。
- ・ スキー学習前に一度職員で研修するのは、学習時の安全性が高まるので、今後も続けてほしい。
- ・ (研修時間を) 1時間30分程度と考え、15時からの開始でも良いのでは。

#### ②来年度に向けて

- ・ スキーやスケートの実技を教えていただけると嬉しいです。
- ・ 版画やスケートなどの指導法
- ・ スケートの実技(元スピードスケート選手だった教員とか近隣在住の元選手などを講師に)

- ◎ 以上の意見を踏まえ、実技研は継続する方向で考えます。
- ◎ 実施時間は内容によっては15時スタートも考慮します。
- ◎ 具体的な実技研の方向性は来年度アンケート等により決定いたします。

#### (2) 教師用図書の購入について

- ・ つまづき支援ワーク(今年度希望)
- ・ グレーゾーンの国語・算数ワーク(今年度希望)
- ・ アクティブラーニングに関するもの

- ◎ 具体的な書名が挙がっているものに関しては、今年度中に購入したいと考えています。

#### (3) その他、研修にかかわって何かございましたらお書きください。

- ・ 授業実践の公開や、ICT機器の実技研を実施することにより、みんながわかりやすい研修が推進されました。研修担当の先生、大変ありがとうございました。
- ・ 1年間お疲れ様でした。iPadに関する資料もたくさん出していただき、勉強になりました。どうもありがとうございました。
- ・ せっかくのICT機器を使った研修も、仕事に実際に取り入れてどんどん活用しないと身には付かず…個人的な反省です。来年度はこっそりと頑張りたいと思います。
- ・ 1年間大変お疲れ様でした。PCなど困った時は大変お世話になりました。ありがとうございました。

二年間、研修にご協力いただき、本当にありがとうございました。

## 途別小情報モラル年間指導計画

学年	単元	学習のねらい	関連教科 資料
1年	友達と教え合い、楽しくコンピュータを使おう。	みんなが気持ちよくコンピュータを使うために、どんなことを大切にしたらよいかを考える。	生活「コンピュータを使おう」 道徳「みんなののりもの」
	自分や友達のことを知らない人に教えない。	知らない人に名前や住所、電話番号など聞かれても教えないことを知る。	学活 安全指導 ALSOK 防犯教室
	ゲームなどの情報機器は、使い方を考えてよりよく使おう。	テレビやゲームなどの世界と現実を区別し、相手の気持ちを考えてよりよく使おうとする。	学活 保健指導
2年	相手への影響をを考えて行動しよう。	悪口や嘘の落書きが相手や周囲の人たちに与える影響を考える。	道徳「さるおの落書き」
	友達の作品のよいところを見つけよう。	友達の作品の良いところを見つけ、作品の込められた願いや想いについて考え、大切にしようとする。	図工 作品の鑑賞
	大切な情報を守ろう。	自分の大切な情報は、友達に教えないことの大切さに気付く。	道徳「さるおのパスワード」 ALSOK 防犯教室
3年	相手への影響をを考えて発信しよう。	校内電子掲示板等に書き込む時には、相手の気持ちを考えて情報発信することの大切さに気付く。	iPad アプリ「ネット社会の歩き方」
	肖像権について知ろう。	写真を撮る時は相手の許可を取ることや、他人の写真を使う時は本人の了承を得ることについて知る。	社会「商店のはたらき」 iPad アプリ「ネット社会の歩き方」
	不適切な情報に出会った時の対応の仕方を考えよう。	インターネット上には不適切な情報があることを知り、危険を回避することの大切さに気付く。	iPad アプリ「ネット社会の歩き方」
4年	ケータイを気持ちよく使う時のルールやマナーを考えよう。	気持ちよく生活するために、携帯電話を使う時にも相手のことを考えたルールやマナーが必要なることに気付く。	道徳 「人の気持ちを考える」 iPad アプリ「ネット社会の歩き方」
	著作権について知ろう。	身近な例から著作物について考え、著作権の概念を知る。	国語 「見学したことを報告しよう」 iPad アプリ「ネット社会の歩き方」
	受け取った情報が正しいものか判断しよう。	インターネット上の情報を鵜呑みにせず、複数の情報から判断することの大切さに気付く。	iPad アプリ「ネット社会の歩き方」
5年	情報化社会における適切な情報の扱い方について知る。	情報化社会の利点や問題点を知り、情報の受け手、送り手として責任ある行動を行う必要に気付く。	社会 「情報化した社会と私たちの生活」
	情報の保護や取扱いに関する基本的なルールや法律の内容を知ろう。	自他の個人情報を大切にすることや、その適切な取り扱い方を知る。	NHK for School 「メディアの目」 「スマホ・リアル・ストーリー」
	コンピュータウイルスについて知り、予防のための対策について考えよう。	予想される危険の内容を知り、セキュリティを意識して、適切なコンピュータを利用する方法を知る。	文科省 「情報化社会の新たな問題を考えるための児童生徒向けの教材、教員向けの手引書」
6年	文字でのコミュニケーションについて考えよう。	文字だけのやり取りは誤解が生じやすいことを理解し、チャットやメールを利用する時に気を付けること考える。	NHK for School 「メディアの目」 「スマホ・リアル・ストーリー」
	情報を活用するときには著作権や肖像権に気をつけよう。	著作権や肖像権など、情報には自他の権利があることを知り、尊重しようとする。	文科省 「情報化社会の新たな問題を考えるための児童生徒向けの教材、教員向けの手引書」
	ネット依存症について知り、よりよいコンピュータ活用について考える。	ネット依存の悪影響について知り、節度あるコンピュータの使い方や人間関係を築く大切さに気付く。	

2015(平成 27)年 1 月作成